



2022.6.6

## エウロクチャーナ2022 概要

最新のキッチンデザインのキーワードは、「スローライフ」、「テクノロジー」、「サステイナビリティ」

第23回エウロクチャーナは、キッチン分野の最も権威ある見本市で、6月7日から12日までロー・フィエラミラノ国際見本市会場で開催されます。トップクラスのイタリア企業と海外企業が集まり、商談や意見交換がなされます。

第23回エウロクチャーナは、国際レベルのキッチンショーのベンチマークであり、15,000 m<sup>2</sup>に81社が出展します。展示製品はすべて高品質で幅広く、展示はキッチンのメイン会場となる9と11ホールだけに限りません。トータルでのリビングソリューションを提案する家具メーカーは、それぞれのブースでキッチンの提案を発表します。

### ●キッチンデザイン全体の傾向

今回のイベントでは、キッチンはオープンスペースと見なされています。オープンなスペースは集まったり、食べたりするために人々を誘う招待状となり、その中ですべての作業をすることができます。私たちの生活の中で、人と会うことの重要性、人間関係、一緒に過ごす時間、そしてリズム（うまくいけばゆっくりと）を再認識する場所です。キッチンはダイナミックで流動的でハイブリッドな空間は、現代的な生活の多機能な表現を生み出すための、デザインが求められています。これは多くのブランドに見られるトレンドです。キッチンデザインの定義をニューノーマルライフに即したものに転換し、キッチンスペースに関わる慣習や使い方を思案しました。過去数年間に定着した新しい家事のルーティンは、家族が共にいることの感覚を強め、家庭内のいりりともいえるキッチンは決して革新を止めませんでした。キッチンは、新しい価値観やライフスタイルを受け入れながら伝統を統合し、新しい思い出や習慣、楽しみを生み出す空間と見なされています。

「アイランド」はキッチンやリビングのコアゾーンになると見なされています。そこに充実したワインセラー、家庭用の菜園温室、ランドリー機器などの新しい設備を加えることができます。マルチファンクショナルな生活へ回答となります。シェルフ式や壁付または部屋の中心に自立できるモジュールは、エレガントで用途が広く、様々な機器とキッチン、リビングを統合するだけでなく、室内の領域を差別化するのにも役立ちます。家電機器、パントリー、水栓金具など目立たないように隠す折りたたみ式扉のウォーク・イン・キッチンも復活しています。可動式または非可動式にかかわらず、屋外の使用に耐えるアウトドア製品も増えています。素材と性能の両方の多様性、実用性、品質を組み合わせ、特別な技術での仕上げやカバーに加えて、鉄、木、石などの原始的な素材が復活しています。色合いは自然の色のスペクトルに触発されており、多くの場合、料理で最も頻繁に使用されるスパイス（セージ、ローズマリー、ラベンダー、サフラン、バジル）を彷彿とさせる落ち着いた色調の組み合わせが増えています。

**●特徴ある出展社の一部を紹介**

**Stefano Boeri/ステファノ・ボエリによるAran Cucine/アラン・クッチーネの「oasi(オアシ)」**（ホール11 | C15 D26）は、いわゆるスローライフと人間と自然の絆を信条にしています。キッチンが共有された空間で、自分自身や他の人と調和して、より良い生活を送ることができるプロジェクトです。「オアシ」の新作は壁掛けバージョンで、自然の要素のおかげでその独特の特徴を維持し、パントリーや料理の準備、消費、食のリサイクルまでが、キッチンで循環できるような技術や原則を再び取り入れています。このキッチンの基本的な特徴はキッチンで樹木や植物が育てることができるので、樹木は家族のような存在で成長します。料理に使える樹木や植物は家を装い、自然の香りを放ち、記憶を呼び起こす象徴的な存在となります。

**Giuseppe Bavuso/ジュゼッペ・バヴーゾがErnestomeda/エルネストメダ社のために作った「sign (サイン)」**（ホール09 | A09 B10）は、他の家庭用スペースと一緒につながるキッチンで、リビングエリアの延長であり、楽しい集いのハブスペースになっています。建築家のコンセプトはシンプルで直接的です。一方で、このスペースは料理の準備をコントロールできる機能的な面を重視する一方で、周囲の環境と調和する必要もあります。このように「サイン」は家に生活空間に必要な典型的な要素をベースに、カスタマイズしていくことにアクセントを置いたキッチンです。「サービス」の役割を超えて、あらゆる範囲の家具になることを可能にします。デザインの特徴の1つは、いわゆる吊り戸棚がまったくないことです。代わりに、オープンなキャビネットとボアズリー（カービング彫刻がほどこされた扉）、すべての要素が絶妙に組み合わせられた展示エリアが実現されます。

**Falper/ファルパー（ホール22 | D19 D21）**は、小さくて美しく洗練されたキッチンでエウロクチャーナデビューを果たします。リビングエリアとモダンなオープンスペースがつながっての展示となります。デザイナーの**Andrea Federici/アンドレア・フェデリーチ**と共同で設計された、「**Small Living Kitchens™ (スモールリビングキッチンズ)**」は、「**Isole (イゾレ)**」、「**Madie (マディエ)**」、「**Colonne (コロネ)**」などの、いくつかの要素で構成されたキッチンシステムです。キッチンだけではなく、リビングまでをも装えます。

キッチン「**Tivali (ティヴァリ)**」は、カナダ人デザイナーの**George Yabu and Glenn Pushelberg (ジョージ・ヤブとグレン・プッセルバーグ)**によって再解釈され、まったく異なる方向を向いているように見えます。もともとは**Dada/ダーダ（ホール20 | A03 C02）**のために2004年に**Dante Bonuccelli (ダンテ・ボヌチェリ)**によって設計されたもので「小さなスペースのすべて」のコンセプトの先駆者でした。設計は最大3メートルの直線的な空間内にキッチンを配置するというアイデアに基づいています。料理の行為は舞台での俳優の演技に似ています。舞台美術の要素が優先され、カーテンがシーンを隠すすべての劇場ステージと同様に**中身が見えない大きな閉じた家具**のように見えます。2つの大きなスライド式フラップドアが開いて、コンテナのフレームの側面に消えるときだけ、キッチンの中が見え、機能が明確になります。円形劇場のような表現力豊かで居心地の良い空間は家全体に開いてお

り、カーブした大理石または石の調理台とベースのはしがスリットに加工され、これまでにない雰囲気キッチンとなっています。

家庭環境との調和を図りながら、キッチンのフォルムは柔らかく丸みを帯びてきていますが、一方で**清潔を保つなどの高い機能性と耐久性**が日常で厳しく求められます。

そのような例の1つは、エルズワース・ケリー、ジオ・ポンティ、ドナルド・ジャッドに目を向け、ディスプレイのフォルムを現代的なキーで再解釈する、**Scavolini/スカボリーニ (ホール11 | A15 B20)** での**Luca Nichetto(ルカ・ニケット)**のデザインアプローチです。ニケットはエルズワースケリーの彫刻を大きな壁に割り当てました。ジオ・ポンティの幾何学的な壁と、ミニマリズムの最も厳密な指数の1つであるドナルド・ジャッドから着想を得て、彼は、単純なシーケンスまたは等比数列で繰り返されるモジュールのように配置した3次元構造を応用しました。これらの比較から、**Jeometrica(ジェオメトリカ)**が生まれたのです。複数の用途に使えるプログラムで、キッチン、リビングルーム、バスルームのソリューションを作成し、家のすべての部屋でスタイルの一貫性を確保し、動線の流れが良く、デザインの調和がとれた空間を作ります。珍しいポイントの1つは、ラミネートのバックパネルです。システムの多面的な性質は、棚、コンテナ、および小さなアクセサリを完全に自律的に挿入できるようにするダボ穴を整えられ、それによって必要に応じてアクセサリーや棚などの位置を変更できます。

キッチン家具が**変化しやすいシステムとなり、機能面も保証されているとなると、そのための材料も実験的で技術革新なものに移行します。最新の材料は、表面の耐久性が向上し、化学薬品、摩耗、叩くような衝撃、紫外線、熱の衝撃に対する耐性が向上しているため、経年劣化の可能性が低くなります。**

**Porcelanosa/ポルセラノサ (ホール11 | A25 B26)** は、この革新を極限まで高めています。そのスマートキッチンには、「XTONE」というセラミック素材または天然石を使い、全く接合部の見えない天板で、統一感ある美学でキッチン家具を構成しています。デュアルインダクションシステム（2通りのIH熱源）が天板の下にあり、調理エリアが限界なく広がります。ワークトップは、ワイヤレスモードで、**小型の互換性のあるIHクッキングヒーターや電気エネルギー源としても使用できます。** タッチスクリーンのコントロールパネルだけが表示されます。

テクノロジーと持続可能性は **Häcker/ヘッカー (ホール 09 | D15 E16)** の強みであり、「**systemat(システムット)**」と「**concept130 (コンセプト 130)**」の2つの製品ラインを提供しています。どちらも完全な自由設計、最大の機能性と標準化を実現し、環境への影響はほとんどありません。エネルギー効率が高く、健康的な生活を約束しています。塗料はすべて水性で、リサイクルされた材料を多く含むラッカー塗装が、新作の「ローマ」と「ラヴェンナ」のドアモデルに使用されています。



Salone del Mobile. Milano

Press

今年のエウロクチャーナでは、他にも持続可能な生産サイクルへの投資を強化している他の多くの企業があります。多くのキッチン製品は二酸化炭素排出量を抑え、製品のライフサイクルまで考慮した耐久性のあるソリューションで製造しています。

プレスお問い合わせ先: 山本幸 [yuki@milanosalone.com](mailto:yuki@milanosalone.com)

International press info: Marva Griffin-Patrizia Malfatti [press@salonemilano.it](mailto:press@salonemilano.it)